

U.S. Indicators

発表日:2019年5月15日(水)

米国 19 年 4 月小売売上高は予想を下振れ

～しかし、拡大モメンタムは維持～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

| | | | 耐久財関連 (*1) | | | | 非耐久財関連 (*2) | | | ガソリン |
|-------|------|--------|------------|------|------|------|-------------|------|------|------|
| | | 除く車 | | 自動車 | 家具 | 家電 | | 衣料品 | | |
| 18/04 | +0.4 | (+4.8) | +0.4 | +0.8 | +0.7 | +2.7 | +1.3 | +0.5 | +2.0 | ▲0.1 |
| 18/05 | +1.2 | (+6.4) | +1.4 | +0.6 | +0.7 | ▲1.8 | ▲0.7 | +1.2 | +2.3 | +3.0 |
| 18/06 | +0.2 | (+6.1) | +0.3 | +0.0 | ▲0.1 | +0.3 | +0.9 | +0.1 | ▲1.0 | +0.6 |
| 18/07 | +0.6 | (+6.6) | +0.8 | +0.1 | +0.0 | +0.5 | +0.1 | +0.7 | +1.6 | +0.4 |
| 18/08 | ▲0.1 | (+6.4) | +0.1 | ▲0.4 | ▲0.7 | ▲1.1 | +0.0 | +0.1 | ▲3.0 | +1.6 |
| 18/09 | ▲0.2 | (+4.0) | ▲0.3 | +0.0 | ▲0.0 | +0.5 | ▲1.2 | ▲0.1 | +0.7 | ▲1.3 |
| 18/10 | +1.0 | (+4.6) | +0.8 | +1.3 | +1.6 | ▲0.9 | ▲0.0 | +1.0 | +1.1 | +4.2 |
| 18/11 | ▲0.0 | (+4.0) | ▲0.1 | ▲0.1 | +0.3 | ▲0.8 | ▲1.0 | +0.1 | +0.2 | ▲4.2 |
| 18/12 | ▲1.6 | (+1.6) | ▲2.1 | +0.1 | +0.4 | ▲1.3 | ▲1.2 | ▲2.8 | ▲1.3 | ▲5.9 |
| 19/01 | +0.8 | (+2.9) | +1.4 | ▲0.2 | ▲1.8 | +0.4 | +0.5 | +1.4 | ▲0.9 | ▲1.7 |
| 19/02 | ▲0.3 | (+2.1) | ▲0.3 | ▲1.4 | ▲0.2 | +0.1 | ▲1.6 | +0.2 | ▲1.4 | +3.6 |
| 19/03 | +1.7 | (+3.8) | +1.3 | +2.5 | +3.2 | +1.0 | +1.2 | +1.4 | +2.1 | +3.3 |
| 19/04 | ▲0.2 | (+3.1) | +0.1 | ▲1.2 | ▲1.1 | ▲0.0 | ▲1.3 | +0.3 | ▲0.2 | +1.8 |

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比(未季調)。

*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上合計。

*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

19年4月の小売・飲食サービス売上高(速報値、季節調整値)は、前月比▲0.2%(前月同+1.7%)と市場予想中央値の同+0.2%に反して減少した。前年同月比でも+3.1%に減速した。4月の小売売上高は、前月の急増の反動もあって下振れた。雇用・所得の増加傾向、株価・不動産等の資産残高の増加、消費者マインドの高水準での安定などを考慮すると、一時的な下振れと判断される。

業態別では、スポーツ用品・本・趣味用品が増加に転じた。一方、自動車・同部品、家電、建設資材、薬局、衣料品、通信販売が減少に転じたほか、家具、食品・飲料、ガソリンスタンド、百貨店など一般小売、その他小売、飲食店が減速した。

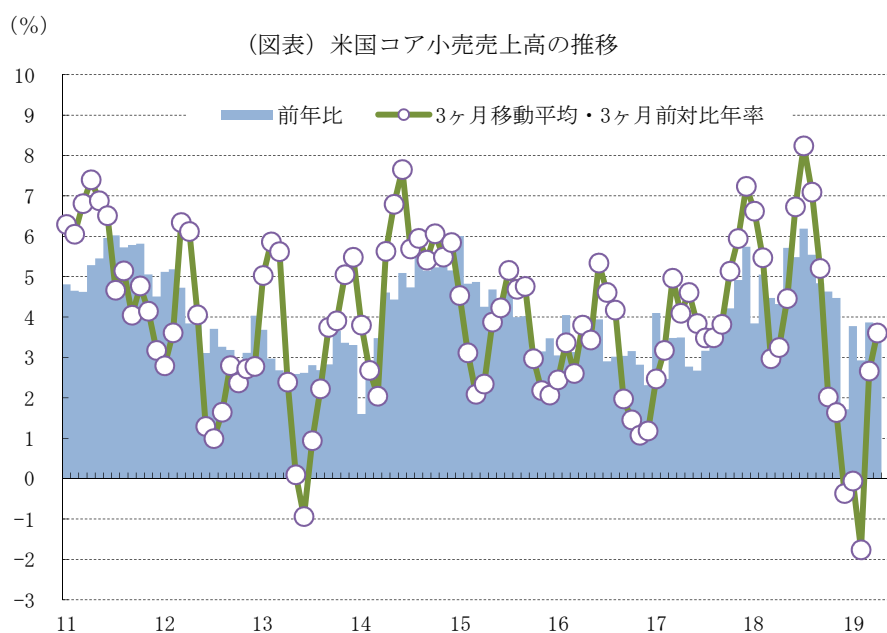
4月の小売売上高の前月比(▲0.19%)の寄与度をみると、ガソリンスタンドが+0.15%と最大の押し上げ寄与となったほか、飲食店が+0.03%、食品・飲料が+0.02%、百貨店を含む一般小売が+0.02%と続いた。一方、自動車・同部品が▲0.23%と最も押し下げに寄与した。次いで建設資材が▲0.12%、家電が▲0.02%、通信販売が▲0.02%、薬局が▲0.01%、衣料品が▲0.01%となった。なお、家具、スポーツ用品・本・趣味用品、その他小売りは0.00%。

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.1%(前月同+1.3%)と市場予想の同+0.7%を下回った。家電、建設資材、薬局、衣料品、通信販売が減少に転じたほか、家具、食品・飲料、ガソリンスタンド、百貨店など一般小売、その他小売、飲食店が減速した。前年同月比でも、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は+3.3%(前月+3.7%)と鈍化した。

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は、前月比0.0%（前月同+1.1%）と前月の急増の反動により減速した（2、3月合計で0.1%上方修正）。スポーツ用品・本・趣味用品が増加に転じた一方、家電、薬局、衣料品、通信販売が減少に転じたほか、家具、食品・飲料、百貨店など一般小売、その他小売、飲食店が減速した。前年同月比でも、コア小売売上高は+3.4%（前月+3.9%）と鈍化した。

もっとも、コア小売売上高は3ヵ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、4月に+3.6%（前月+2.7%）とプラス幅を拡大し、拡大モメンタムを強めた。また、四半期でも1-3月期比年率+2.8%と1-3月期の前期比年率+2.7%（速報の+2.5%から上方修正）から小幅加速しており、小売売上高は拡大ペースを維持している。

実質個人消費は、1-3月期に政府機関の一部閉鎖、悪天候などの一時的な要因によって、前期比年率+1.2%に減速したものの、4-6月期に雇用・所得の拡大が続くなか、一時的な要因の剥落によって前期比年率+3%程度に拡大ペースを速めると見込まれる。



(出所) 米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。